

第18回 日本医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ(第1報)

明るい病院改革 ～改善とイノベーションで切り拓く明日の最適医療～



第18回 日本医療マネジメント学会学術総会
会長 田中二郎
(株式会社麻生飯塚病院名誉院長)

人類とチンパンジーとの現在の差は500万年の改善とイノベーションの積み重ねの差であると言えます。ことほどさように、人類にとって改善とイノベーションは

社会の発展を促進する重要な因子であり、集団や組織が向上していくためにこの両者は常に活性化していかなければなりません。

いま、グローバルな動きとして、多職種横断的なチーム医療の現場でクリティカルパス、TQM、トヨタ生産方式などのツールを用いて、ムリ・ムダ・ムラの排除など業務の改善と経営効率の向上が日々積み重ねられるようになってきました。これらのツールは医療界にとって業務の見方、捉え方を一変させるイノベーションそのものです。また、電子カルテを筆頭とするICTの進歩も医療・福祉分野の現場サービスと経営の品質を大きく高めています。実は、サービスを高めていくとコストが上がり、経営の足を引っ張るとというのが常識ですが、一世を風靡するイノベーションには「あれかこれか」の二律背反を覆し、「あれもこれも」と、万人に受け入れられる性質のものが多くあります。

今、日本の国家財政が切迫する中、医療費高騰に対して早急な手当てが必要であることは論を待ちません。ただ、やり方として、今までの「あれもこれも」の高福祉時代から、「あれかこれか」の切り捨て時代にならないようにしなければなりません。必要なのは、皆が危機感を共有し、知恵を絞って改善に加えてイノベーションを起こし、「あれもこれも」の明日の最適医療を切り拓く気概ではないでしょうか。「売り手よし、買い手よし、世間よし」と近江商人心得にあるように、病める者、癒す者、そして納税者としての国民、みな満足する最適医療です。

第18回日本医療マネジメント学会学術総会では、学会活動の柱であるクリティカルパス、医療安全、医療連携、職員教育などに加えて、将来社会に向けて現在の医療をどう改善し、改革していくかについての討議を期待します。日本の明るい将来にもつながる学術総会

となるよう、事務局一同努めて参りますので、全国の学会会員の皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。

会 期：2016年4月22日(金)・23日(土)

会 場：福岡国際会議場・福岡サンパレス
(福岡県福岡市)

プログラム(予定)：基調講演、会長講演、招待講演、特別講演、教育講演、教育セミナー、シンポジウム、一般演題(口演/ポスター)、クリティカルパス展示、ランチョンセミナー、市民公開講座等

問い合わせ先：第18回日本医療マネジメント学会学術総会事務局：株式会社麻生 飯塚病院
担当：立石奈々(改善推進本部)
〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3番83号
TEL：0948-29-7039
E-mail：jhm18@aih-net.com

開催報告

分科会等

2014年度医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加して
船橋市立医療センター医事課 阿部知子



会場風景

医師事務作業補助者指導者養成講習会では、基礎的な診療臨床知識のみならず、メンタルサポートや業務マネジメントの基礎を学ばせて頂きました。また、人

材育成や業務の構築について、建設的な考え方をディスカッションしながらまとめていくというグループワークもあり、とても充実した4日間を過ごすことが出来ました。

特に印象深かったのは、医師事務作業補助者として多様性のある業務の中で、業務整理のための分析手法や、個々の到達段階と「それに見合った業務」の紐付けが、“今後を見据えた業務展開”において要となるというアドバイスでした。また、病院内における多職種との役割分担や、業務連携において医師事務作業補助者が陥りやすい事例などに対して、具体的な対策も教えて頂きました。